



LANEY TI15-112

取扱説明書



株式会社 サウンドハウス
〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3
TEL:0476(89)1111 FAX:0476(89)2222
<http://www.soundhouse.co.jp> shop@soundhouse.co.jp

はじめに

この度は Laney 商品をお買い求め頂きありがとうございます。私たちが開発し製作した商品はあらゆるディテールにこだわり、丹精込めて作り上げています。末永く楽しんでいただけることと信じています。Laney の歴史を振り返ると、私が幼い頃、自宅のガレージで真空管アンプを開発していた 1967 年までさかのぼることになります。そして現在に至るまで、ギター、ベースを始め、PA 機器、キーボードアンプ等、様々な分野での商品開発を、エンドーサーである世界的に有名な数々のミュージシャンとともに歩み、成長を重ねてきました。もちろん、我々 Laney 商品が世界に注目されるようになったきっかけでもある“ミュージシャン”が求める素晴らしいサウンドのアンプ造りに念頭を置きながら一生懸命取り組んでおります。

鳴りやまぬ鐘と雷鳴が轟くようなディミニッシュフィフスの重厚なギターサウンド。その音楽は、かつてローマカトリック教会で、悪魔の音楽として禁じられたものでした。まるで、墓から聴こえてくるような慟哭は、今までの音楽の歴史を塗り替え始めたのです。1970 年 2 月 13 日。Black Sabbath によってアルバム” Black Sabbath” がリリース。歪むディミニッシュフィフスサウンドが Tony Iommi によって演奏され、そのとき使用されたアンプが Laney の LA100BL でした。この幸先のよい日から、Tony と Laney は共に歩み、約 20 年前にマルチな Tony のサウンドを生み出した GH100TI を発表。我々は、Tony Iommi と手を組み、新しい彼のシグネチャーアンプ、TI15-112 を発表することができ、大変うれしく誇りに思っています。Tony Iommi の新しい TI100 のヘッドを元にした TI15-112 は Tony の練習用に作られたものですが、低いボリュームでも上位モデルと同等のトーンを出すことが出来ます。TI100 は、あらゆるステージで、Tony の協力を得、十分な時間をかけ、音を洗練し、製品開発を重ねて生まれました。新しい TI100 アンプは、Tony の音のアイデンティティ、積極的なトーンを表現しています。TI15-112 は 15W のパワーを得られるインプットと 1W ローパワーの 2 つのインプットを備えており、ハードにアンプをドライブさせたサウンドから部屋での練習に適した小音量でのサウンドまで対応しています。人生において、自分が「最初である」と主張できる機会は決して多くありません。多くの人々は後から自分が「最も大きい」とか「最も早かった」と主張することは出来ますが、最初のオリジネーターは一人のみです。Heavy Metal の場合、オリジナルの Heavy Metal ギター・トーンを作ったのは Tony Iommi と Laney です。

安全上の注意

1. 水気のあるところで使用はしないでください。
 2. 本体の掃除をする際は乾いた布のみを使用してください。
 3. 本体は通気性の良い所に設置し、周囲に可燃物や爆発物を置かないようご注意ください。
 4. 本製品はラジエーター、ストーブ等の熱源から離して使用してください。
 - 5 極性プラグは、2つのブレードが付いていますが、接地プラグは、二つの金属ブレードに加えてアース用のピンが付いています。幅の広いピン、及びアースピンは安全のために付いています。
- 付属のプラグがコンセントに合わない場合には、旧式のコンセントの交換について電気技術者にご相談下さい。
6. 電源ケーブルが踏まれたり挟まれたりしないよう注意してください。
 7. メーカーによって供給された付属パーツ以外は使用しないでください。
 8. メーカーによって明示されたカート、スタンド、三脚、ブラケット、テーブルをご使用ください。カートを使用し機器を動かす際は転倒防止のため、カートと機器の結合をご確認ください。
 9. 長期の間ご使用にならない場合は、プラグを抜いて下さい。
 10. 機器に異常が見られる場合は、販売店にご相談ください。
 11. 接地プラグのピンは決して折らないでください
 12. 電源コードに隣接するユニットに記載されているタイプの電源のみに接続して下さい。
 13. この製品は重量があるため、ラックマウントする場合、リア部にもラックレールを付けマウントする必要があります。
 14. 本製品に水などの液体をこぼしたり、本体部分にかけたりしないようご注意ください。
 15. 極度の音量は、慢性的な難聴を引き起こす可能性があります。個人により難聴に対するレベルを受けることとなります。

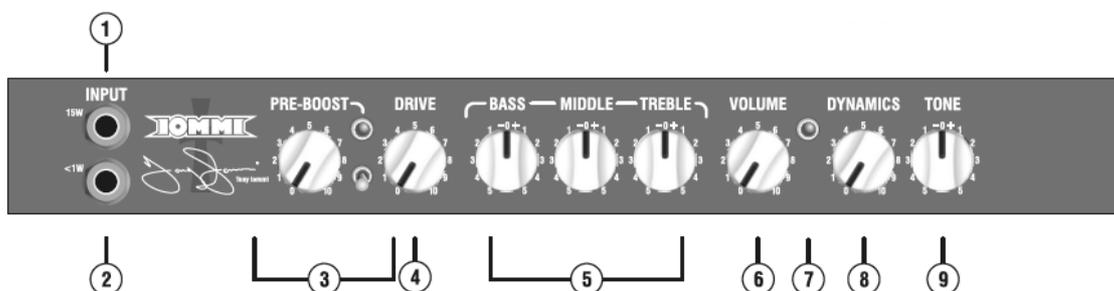
米国政府の労働安全衛生局（OSHA）は以下のノイズレベルの許容量を定めています。

※ OSHAによると、上記の許容量を超える音量にさらされた場合、聴力の損失の原因になるため、音量レベルが前述のように限度を上回る場合、難聴を防止するために耳栓やプロテクターをする必要があるとのことです。

高い音圧レベルの音にさらされる危険から守るために、アンプがドライブされている間は、上記のように耳栓などを使用されることをお勧めします。

各部の名称と働き

前面パネル



- ① **15W INPUT** : 1/4" モノジャック端子 フルボリュームの迫力あるサウンドを得るにはこのジャックに接続します。品質の確かなギターケーブルをご使用ください。
- ② **1W INPUT** : 1/4" モノジャック端子。このジャックに接続すると、1W 以下の出力段に切り換わり、小音量でもハードなサウンドを得ることができます。*両方のソケットを同時に使用しないでください。
- ③ **PRE-BOOST SWITCH** : input boost 回路の On/off 切り替えスイッチで、これを On にすることによって、プリ管をよりハードにドライブさせディストーションを更に効かせることができます。
 - ・PRE-BOOST CONTROL : ギターからの信号に掛かる boost のレベルをコントロールします。
 - ・PRE-BOOST LED : この LED は、Pre-Boost コントロールが作動している時に点灯します。
- ④ **DRIVE** : プリアンプのディストーションレベルをコントロールします。時計回りに回すと、軽いオーバードライブから、メタルサウンドまで、ディストーションレベルが増幅します。⑥の Volume コントロールとの組み合わせで、適切な音量で、必要なディストーションレベルになるように設定してください。ボリュームが 6 より下の場合、プリアンプのディストーションが 6 以上の時は、パワーアンプのディストーションを得ることができます。
- ⑤ **EQ CONTROLS** : TREBLE , MIDDLE, BASS の 3 バンドイコライザーになります。中間のレベル 5 から音作りをスタートすることをおすすめします。
- ⑥ **VOLUME** : アンプのボリュームをコントロールします。Drive と Volume の異なる組み合わせで、様々なサウンド作ることができます。Volume を Drive より上げることによって、プリアンプをよりハードにドライブさせ、ウォームなオーバードライブサウンドを出すこ

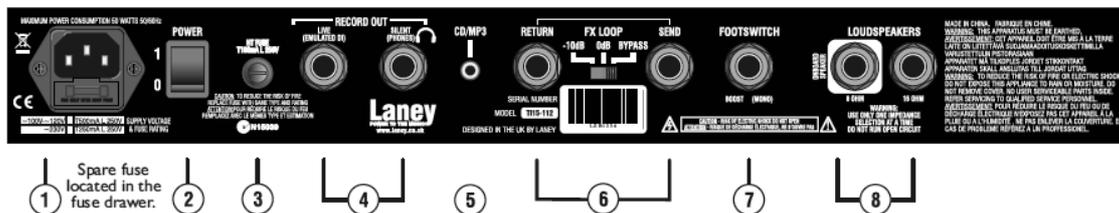
とができ、逆に Drive 側を上げることでディストーションの効果とともに、よりタイトでモダンなサウンドにすることができます。練習などで小さな音が必要な場合は、1W INPUT ジャックにつないで下さい。Drive コントロールを 0 にして、Volume コントロールを上げれば、クリーントーンを得ることができます。

⑦ **POWER LED:** 電源スイッチが入ったとき、点灯します。

⑧ **DYNAMICS:** 低域でのアンプのレスポンスをコントロールします。時計回りに回すとより低域が強調され、反対側にすると逆に低域が締まり、タイトなレスポンスが得られます。

⑨ **TONE:** このトーンコントロールは、通常のギターに内蔵されているトーンコントロールとほぼ同様の働きをします。これは全体的な高域のレスポンスをコントロールするだけでなく、プリアンプのオーバードライブサウンドから発生する不要な高周波のハーモニクスを減少させることも出来ます。調整する際はセンターの「0」から始めると良いでしょう。

背面パネル



① **MAINS INLET SOCKET:** パネル背面に記載の電圧がご使用地域に適しているか確認してください。

MAINS FUSE: 主電源を切ることによって起こるダメージからアンプ本体を保護するヒューズを収納しています。

② **POWER SWITCH:** 本体の主電源スイッチです。チューブアンプはスイッチを入れた後、通常に演奏可能な状態までする準備でウォームアップに30秒から2分ほどかかります。チューブの持ちを良くするためにStandbyスイッチと合わせて、ご使用ください。電源をつけ、スイッチを「I」まであげてください。

③ **HT FUSE(ハイテンション・ヒューズ):** 本機のDC電源を保護するヒューズが格納されています。

ヒューズの交換— 必ずサイズの合うヒューズをご使用ください。サイズの合わないものをご使用になった場合、火災や、アンプにダメージを与える原因となります。ヒューズの規格は、マニュアルとアンプの背面に記載されています。ヒューズはアンプを守るためのものです。ダメージの恐れがないようにしてください。

④ **LIVE RECORD OUT (EMULATED DI):**

Balanced DI Out : アンプとPAシステムまたは、レコーディングに使用するインターフェースに接続する際に使用します。このジャックにケーブルを接続すると、内蔵のスピーカー・シミュレーター機能が自動的にオンとなり、アンプを鳴らしているかのようなサウンドがモニターできます。

・ **SILENT RECORD OUT (PHONES):** ヘッドフォンを使用し練習するときに使用します。LIVE RECORD OUTからと同様のスピーカー・シミュレーター機能が内蔵されています。(内蔵のスピーカーはミュートにしてください。)

ヘッドフォンを使用するときは、ボリュームは0から上げて行き丁度良いレベルになるように調整してください。

⑤ **CD/MP3 LINE IN:** CDまたはMP3プレーヤーを入力するのに使用します。(3.5mmステレオミニプラグ) 入力レベルは、CD/MP3 player上のヴォリュームコントロールで調整します。

⑥ **FX RETURN**: FX SENDジャックに接続した外部エフェクターからの信号を本機に戻すための入力端子です。

FX LOOP SWITCH: FX Loopモードを下記で選択し切り替えます。

- 1) Bypass - FX Loopを通さない音を出力します。
- 2) 0 dBu - 出力レベルが0dBuの機材を接続する場合に使用します。
- 3) -10dBu - 出力レベルが-10dBuなど低めの機材を接続する場合に使用します。

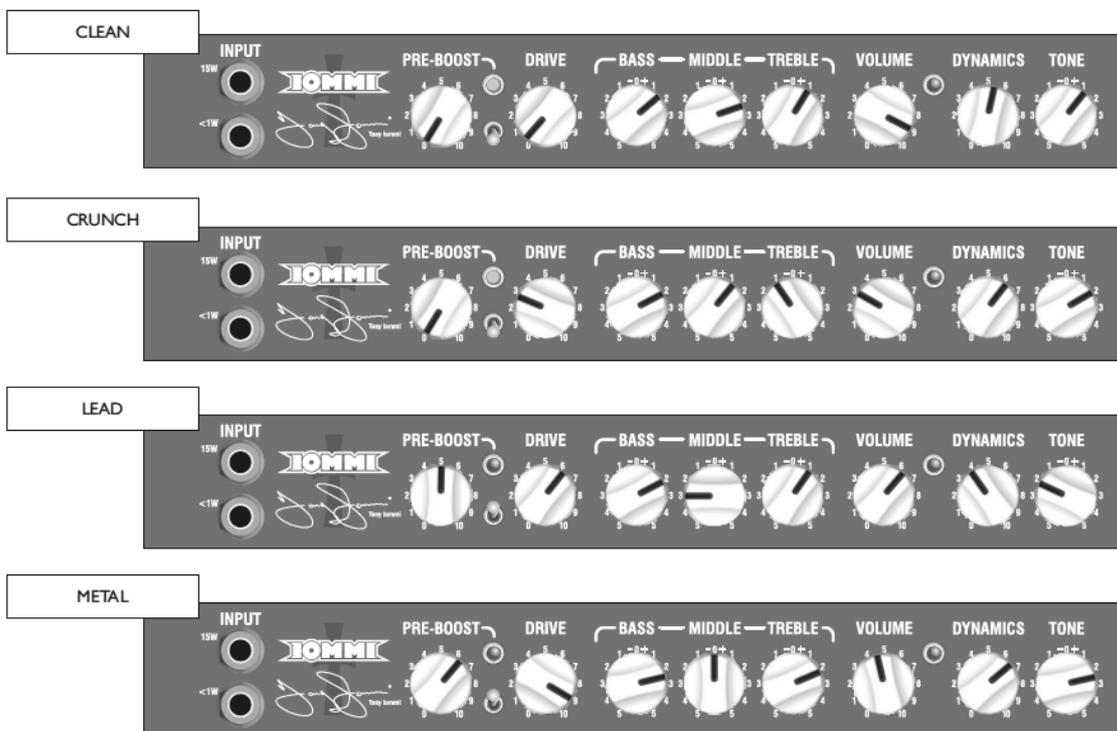
FX SEND: 本機のプリアンプ通過後の信号を外部エフェクターに送るための出力端子です。

⑦ **FOOTSWITCH SOCKET**: Laney FS1などのフットスイッチを接続します。

※フロントパネルのPre-Boost switchはfootswitchを使用するため必ず「0」にセットしてください。

⑧ **LOUDSPEAKER CONNECTIONS** : 8Ωか16Ωのインピーダンスのスピーカーへ接続するための端子です。同時に二つの接続はしないようにしてください。また内部のloudspeakerを使用するとき、8Ωのソケットに接続されているか確認してください。ご使用になるスピーカーとインピーダンスが異なると、アンプの性能が十分に発揮できず、最悪の場合、アンプ本体にダメージが及びますのでご注意ください。また、スピーカーを接続せずに使用すると破損の原因となります。

クイックスタートセッティング



故障かなと思ったら

故障かなと思ったらまず次の項目をチェックしてみてください。書かれている通りに対処しても症状が改善されないときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

- ・ 前面/背面パネルや換気口が熱を持っている。
- ・ 本機の使用中は、真空管の発する熱によって前面/背面パネルや換気口が熱を持ちます。

故障ではありません。

・ 電源プラグは正しく接続されており、POWER スイッチもオンになっているが、電源インジケータが点灯しない。

・ POWER FUSE フォルダのヒューズが切れている可能性があります。お買い上げの販売店にご相談ください。

・ 電源インジケータは点灯するが、音が出ない。

・ スタンバイモードになっていないか確認してください。スタンバイモードになっている場合は、STANDBY スイッチを下に倒してスタンバイモードを解除してください。

・ 背面パネルの EFFECTS LOOP スイッチを[SIDE CHAIN]または[INSERT]にしたときは、FX RETURN LEVEL コントロールの設定が低いと出力音量が小さく鳴ります。音量を上げて音が出なかったり小さかったりする場合は、FX RETURN LEVEL コントロールをゆっくりと少しずつ上げてみて下さい。

・ HT FUSE フォルダのヒューズが切れている可能性があります。お買い上げの販売店に御相談してください。

・ コントロール類が効かない。徐々にパワーが落ちる。

・ 真空管の劣化または破損の可能性があります。お買い上げの販売店に御相談してください。

修理について

故障かなと思われる症状が出た時には、この取扱説明書をもう一度よくお読みになり、接続や操作などを御確認下さい。それでも改善されないときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。調整、修理致します。

真空管の交換について

真空管は消耗品で、仕様戸とももに性能が劣化します。劣化の進行度合いは、使用環境により大きく異なりますが、劣化そのものを避けることは出来ません。真空管の交換には専門的な技術が必要です。交換はお買い上げの販売店に御依頼ください。真空管の交換は保証期間内でも、保証の対象外となります。

スペック

供給電圧：100V

メインヒューズ：T500mA

HTヒューズ：T100mA

消費電力：50W

出力：15W

スピーカー：Custom designed HH acoustic 12" driver

アウトプットインピーダンス：8ohm、16ohm

寸法、重量：461W×445H×268Dcm、14.8kg

保証書

ご使用中に万一故障した場合、本保証書に記載された保証規定により無償修理申し上げます。

お買い上げ日より1年間有効

■保証規定

保証期間内において、取扱説明書・本体ラベルなどの注意書きに基づき正常な使用方法で万一発生した故障については、無料で修理致します。保証期間内かどうかは、サウンドハウスからのご購入履歴により確認を行います。保証期間は通常ご購入日より1年ですが、商品によって異なる場合があります。但し、保証期間内でも、下記のいずれかに該当する場合は、本保証規定の対象外として、有償の修理と致します。

1. お取り扱い方法が不適当（例：ボイスコイル焼けなどの故障等）なために生じた故障の場合
2. サウンドハウス及びサウンドハウス指定のメーカーや代理店が提供するサービス店以外で修理された場合
3. お客様自身が行った調整や修理作業が原因となる故障および損傷。もしくは、製品に対して何らかの改造が加えられた場合
4. 天災（火災、塩害、ガス害、地震、落雷、及び風水害等）による故障及び損傷の場合
5. 製品に何らかの理由で異物が付着、もしくは流入したことによる故障及び損傷とみなされた場合
6. 落下など、外部から衝撃を受けたことによる故障及び損傷とみなされた場合
7. 異常電圧や指定外仕様の電源を使用したことによる故障及び損傷とみなされた場合（例：発電機などの使用による異常電圧変動等）
8. 消耗部品（電池、電球、ヒューズ、真空管、ベルト、各種パーツ、ギター弦等）の交換が必要な場合
9. 通常のメンテナンスが必要とみなされた場合（例：スモークマシン等の目詰まり、内部清掃、ケーブル交換等）
10. その他、メーカーや代理店の判断により保証外とみなされた場合

●運送費用

通常、修理品の発送や持込等に要する費用は全てお客様のご負担となります。但し、事前に確認のとれた初期不良ならびに保証範囲内での修理の場合は、弊社指定の運送会社に限り着払いにて受け付けます。その際、下記RA番号が必要となります。沖縄などの離島の場合、着払いでの受付は行っておりませんので、送料はお客様のご負担にて、どこの運送会社からでも結構ですので発送願います。

●RA番号（返品承認番号）

サウンドハウス宛に商品を送る際は、いかなる場合でもサポート担当より通知されるRA番号を必要とします。また、初期不良または保証期間内の修理における着払いでの運送についても、RA番号が必要です。ご返送される場合は、必ずRA番号を送り状に明記してください。RA番号が無いものについては、着払いは一切お受けできませんのでご了承ください（お客様のご負担の場合はどの便でも結構です）。

●注意事項

サウンドハウス保証は日本国内のみにおいて有効です。また、いかなる場合においても商品の仕様、及び故障から生じる周辺機器の損害、事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、又はその他の金銭的損失等の損害に関して、サウンドハウスは一切の責任を負いません。

加えて、交換や修理等には当初の予定よりも時間を要することがありますが、遅延に関連する損害についても一切の責任を負いません。また、原則として代替機は、ご用意しておりませんのであらかじめご了承ください。